

# 銅 建値1万円反落 148万円 円高が圧迫

11月入りの銅相場は為替要因で反落する動きとなった。JX金属は1日、銅建値を前月末から1キロあたり10円下げの1,480円に改定した。海外銅市況が反発した半面、為替が足元で円高に振れたことで、10月下旬に値を戻していた銅建値は約2週間ぶりに下落に転じた。これを受け、銅スクラップの市中価格は7~20円がた値下がり。なお、銅建値の10月平均価格は1,478.0円で、前月に比べ110.7円高となった。

銅建値の改定を受け、黄銅削り粉建値は20円下げの1,056円に改定。この日は亜鉛建値が大幅安となったことで通常よりも下げ幅が広がった。銅スクラップの

非鉄地金建値推移 (円/kg)

	銅	亜鉛	鉛
8月平均	1,365.0	455.8	360.7
9月平均	1,367.3	463.5	351.2
10月平均	1,478.0	523.8	368.6
10月10日	1,470	511	366
15日			
16日	1,450	517	
21日	1,470	532	372
24日	1,480		
28日		559	
29日	1,490		
11月1日	1,480	523	369

市中実勢価格(関西地区)は1号銅線が1,300~1,315円、下銅が1,170~1,180円、黄銅削り粉は890~900円見当に値下がりをした。

10月中旬以降は小刻みながらも続伸してきた銅相場だが、足元は為替の円高が

圧迫材料となり先行き不透明感が強まりつつある。1日のTTSは1ドル=153.05円で、前月末と比べ1.56円の高値。日銀の追加利上げ観測が強まったことで、円買いが優勢となった。

これに対し、現地31日の指標LME銅価格(セツルメント)は前日比71ドル高の9,427ドルに反発。ただ、直近は一進一退で方向感定まらず、目先は米大統領選の行方が相場を左右する見通しだ。

市中では発生薄がつづき、先行きの荷繰りに対する警戒感が根強いものの、メーカー各社の需要は伸び悩んだままで、高値を手控える動きが目立つ。ある問屋筋は「特に黄銅削り粉の需要不振が深刻で、仕入れ数量・価格とも大幅に抑えざるを得ない」と漏らす。

LME相場、他(現地31日)

	31日前場	前日比(ドル/t)	在庫量	前日比	前月平均
銅	9,427.00	71.00	271,375	-3,925	9,254.50
鉛	1,977.00	2.00	189,425	875	2,007.36
亜鉛	3,102.00	-51.00	246,725	5,500	2,840.79
アルミ	2,617.50	-5.50	738,700	-2,500	2,451.67
ニッケル	15,530.00	-195.00	146,820	666	16,117.86
錫	31,200.00	350.00	4,670	50	31,643.81
金(NY)	2,749.30	-51.50	-	-	2,601.18
原油(NY)	69.26	0.65	-	-	69.37
為替TTS(円/ドル)	153.05	-1.59	-	-	144.55

※金は1troy ounceあたり※原油は1バレルあたりの24年12月限売為替は日本時間11月1日のTTS

## 亜鉛建値3万6千円下げ、鉛は3千円下げ

三井金属は1日、亜鉛建値を前月末から1キロあたり36円下げの523円に改定した。10月の月間平均は523.8円(前月比60.3円高)に確定した。

また、三菱マテリアルの発表による鉛建値は、前月末から1キロあたり3円下げの369円。10月の月間平均は368.6円(前月比17.4円高)となった。

## 富士興産、サステナビリティレポートを作成

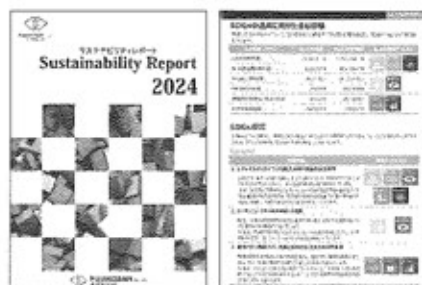
(大阪)富士興産(本社=大阪市浪速区、赤嶺和俊社長)はこのほど、「サステナビリティレポート2024」を発刊した。同レポートは、レアメタルやレアアースのリサイクルを手掛ける富士マテリアルのホームページでも閲覧できる。

同レポートは同社のこれまでの活動をまとめた報告書となる。会社の沿革や事業内容などのほか、活動事例を「サステナビリティに関する取り組み」「環境に関する取り組み」「社会に関する取り組み」の三部構成にまとめて掲載している。

同レポートについて赤嶺社長は「作成にあたっては、実際にデータ数値から可視化することで、社員と一緒に目標に向かって進んでいけるように心掛けた」と話す。

同社は10月1日から原料リサイクル事業を分離独立させ、新会社の「富士マテリアル」が業務を引き継い

でいる。現在は新会社のサポート業務に従事しており、赤嶺社長は「レポートは当社のあゆみを掲載しているが、業務を引き継いだ富士マテ



サステナビリティレポート

リアルの会社紹介としても見ていただける内容となっている。これまで当社が取り組んできたリサイクルや社会貢献事業を富士マテリアルにつなげる『たすき』として、レポートを見てもらえたら幸いです」と語る。また発刊した同レポートについては今後、富士マテリアルの営業活動にも活用していく方針だ。